

A 基礎 春の朝

答えと考え方

問1 読みから意味へ

答え ウ

解説 「出でて」を「出て」と直し、動作が順に続くように読む。読みだけを示したり、だれかに命令したりする文ではない。

問2 程度を落とさない

解答例 風はとても静かだ。

解説 「いと」が「静か」を強めている。現代語の「糸」にはせず、「とても」「たいそう」などで表す。

別解・許容 風はたいそう静かである。

問3 古語を現代語へ

解答例 小さな鳥が、枝にとまっている。

解説 「ゐたり」はそこにいる状態。この場面では鳥なので、「枝にとまっている」とすれば自然な訳になる。

別解・許容 小さい鳥が枝にいる。

問4 否定を訳す

解答例 今日は雨が降らない。

解説 「けふ」は今日。「降らず」の「ず」が否定なので、「降る」と反対の意味にしない。

別解・許容 今日は雨は降らない。

A 基礎 春の朝 続き

答えと考え方

問5 助詞も生かす

解答例 雲もない。

解説 「も」を残すと、雨だけでなく雲もないというつながりが伝わる。「なし」は存在の否定。

別解・許容 雲ありません。

問6 逆のつながり

解答例 しばらく花を見ていたけれども、

解説 「けれども」は、前後が逆の方向につながることを示す。花を見続けていたが、この後は家へ戻る。「見たので」のような理由にしない。

別解・許容 しばらく花を見たけれども、

問7 理由と結果を結ぶ

解答例 風が寒かったので、童は家に帰った。

解説 風の寒さを理由として、花を見ていた童が帰った。「ぬ」はここでは完了であり、「帰らない」という否定ではない。

別解・許容 風が冷たかったので、子どもは家へ帰った。

問8 動作の順序

解答例 母は戸を閉めて、火をおこした。

解説 戸を閉める、火をおこすという順序を保つ。「閉めて」を仮名だけで直すのではなく、自然な言葉にする。

別解・許容 母は戸を閉じ、それから火をおこした。

本文の現代語訳

- ① 春の朝、子どもが庭に出て、花を見る。風はとても静かだ。小さな鳥が枝にとまっている。
- ② 母が「今日は雨が降らない」と言う。子どもは空を見上げ、「雲もない」と答える。

A 基礎 春の朝 続き

訳の続き

③ 子どもはしばらく花を見ていたけれども、風が寒かったので家に帰った。母は戸を閉めて火をおこした。

B 標準 かわいらしいもの

答えと考え方

問1 場面に合う古語

答え イ

解説 小さい物や幼い子どものしぐさを、親しみをもって見ている。「かわいらしい」という意味が合う。

問2 名詞をつなぐ

解答例 子どもの目に髪がかぶさっているのを、

解説 目にかかっているのは髪。「髪の」の「の」は、ここでは「髪が」と読むと自然になる。次の動作につなげて訳す。

別解・許容 子どもの目を髪がおおっているのを、

問3 打消しを保つ

解答例 かきのけないで、

解説 「で」が「～しないで」という打消しを表す。髪をかきのけてしまったとは書かれていない。

別解・許容 かき払わずに、

問4 一連のしぐさ

解答例 首を少しかしげて物などを見るのは、とてもかわいらしい。

解説 動作と評価をまとめる。「見る」だけで文を終えず、かわいらしいと感じていることも訳に入れる。

別解・許容 顔を少し傾けて物などを見ているのが、たいそうかわいい。

B 標準 かわいらしいもの の 続き

答えと考え方

問5 省略された名詞を補う

解答例 蓮の浮き葉でとても小さいものを、池から取り上げて見る。

解説 「ちひさき」は小さい浮き葉を指すので、「小さいもの」と補う。「池より」は比較ではなく、取り上げる場所を表す。

別解・許容 蓮の浮き葉のとても小さいのを、池から取って見る。

問6 繰り返しの強さ

解答例 何でも何でも、小さいものはとてもかわいらしい。

解説 「なにもなにも」は、小さい物の一つだけに限らない広がりを表す。「いと」の強さも落とさない。

別解・許容 何もかも、小さいものはたいそうかわいい。

問7 およその数

解答例 八歳、九歳、十歳くらいの男の子。

解説 年齢を並べ、「ばかり」でおよその範囲を表す。八人から十人という人数ではない。

別解・許容 八歳から十歳くらいの男の子。

問8 誤訳を直す

解答例 声が幼くて、漢文の書物を読んでいるのが、とてもかわいらしい。

解説 本文の「文」は語注のとおり漢文の書物で、動作も「よみたる」だから読むこと。「書く」に変えてはいけない。

別解・許容 幼い声で漢文の書物を読んでいる様子が、たいそうかわいい。

本文の現代語訳

① 尼のように髪を切りそろえた子どもが、目にかかる髪をかきのけしないで、首を少しかしげて物などを見るのは、とてもかわいらしい。

B 標準 かわいらしいもの の 続き

訳の続き

- ② 人形の道具。蓮の浮き葉でとても小さいものを、池から取り上げて見る。葵の小さいものもとてもかわいらしい。何でも何でも、小さいものはとてもかわいらしい。
- ③ 八歳、九歳、十歳くらいの男の子が、幼い声で漢文の書物を読んでいるのは、とてもかわいらしい。

C 応用 竹の中の小さな人

答えと考え方

問1 昔話の書き出し

解答例 今となっては昔のことだが、竹取の翁という者がいた。

解説 「今は昔」は昔の話を始める言い方。「といふ」は名前を示し、「ありけり」は過去の存在を述べる。

別解・許容 今では昔の話だが、竹取の翁と呼ばれる人がいた。

問2 繰り返す動作

解答例 野山に分け入って、竹を繰り返し取っては、

解説 「つつ」はこの場面では同じことを繰り返す意味。竹を一度だけ取ったのではなく、日々の仕事として続けている。

別解・許容 野山に入っては竹を取って、

問3 数量と場所

解答例 その竹の中に、根元が光る竹が一本あった。

解説 「本」は根元。「ひとすぢ」はこの場面では一本で、光の筋が一本あるという意味ではない。

別解・許容 その竹の中に、根元の光っている竹が一本あった。

問4 動作のつながり

解答例 翁が不思議に思って近寄って見ると、

解説 不思議に思う、近寄る、見るの順に、翁の動作が続く。「に」は次の発見へつなぐ「～すると」と読む。

別解・許容 翁は不審に思い、近付いて見てみると、

C 応用 竹の中の小さな人 続き

答えと考え方

問5 見えた状態

解答例 竹の筒の中が光っている。

解説 「筒」は竹の筒。「光る」は見た時の状態であり、「光るだろう」と予想する文ではない。

別解・許容 竹筒の中が光っていた。

問6 姿と程度をまとめる

解答例 三寸ほどの人が、とてもかわいらしい姿で座っていた。

解説 「ばかり」はおよその大きさ、「いと」は程度の強さ。「美し」はこの場面では小さくかわいらしいこと。「居たり」の状態まで訳す。

別解・許容 九センチメートルほどの人が、たいそうかわいらしく座っていた。

問7 主語と対象を補う

解答例 翁はその子を手の中に入れて、家に連れて来た。

解説 竹の中にいた子を手に入れて運ぶ。「もてきぬ」は持って来たという完了であり、「来ない」ではない。

別解・許容 翁は小さな人を手にのせて、家へ連れて帰った。

問8 させる意味を訳す

解答例 翁は子を妻の嫗に預けて、育てさせる。

解説 「養はす」は育てさせる。翁自身が妻に育てられるのでも、妻を育てるのでもない。預ける対象の子を補うと関係が明確になる。

別解・許容 翁は子を自分の妻に預け、妻に養育させた。

本文の現代語訳

① 今となっては昔のことだが、竹取の翁という者がいた。野山に分け入って竹を繰り返し取り、いろいろなことに使っていた。

C 応用 竹の中の小さな人 続き

訳の続き

- ② その竹の中に、根元の光る竹が一本あった。翁が不思議に思って近寄って見ると、筒の中が光っている。それを見ると、三寸ほどの人が、とてもかわいらしい姿で座っていた。
- ③ 翁はその子を手の中に入れて、家に連れて来た。妻の姫に預けて育てさせる。

D 確認テスト 仁和寺にある法師

確認テスト 100点 採点基準付き

問1 否定と理由〔10点〕

答え 年を取るまで石清水八幡宮を参拝しことがなかったのを、

解説 「ざり」の否定と「ければ」の理由を落とさない。

採点 年を取るまで3点／参拝していなかった4点／のでという理由3点。

問2 移動の仕方〔10点〕

答え たった一人で歩いて参拝に出かけた。

解説 「かちより」は徒歩で。「まうづ」はこの場面では参拝に行くこと。

採点 一人3点／徒歩3点／参拝に出かけた4点。

問3 古語と判断〔10点〕

答え 参拝する所はこれだけだと思い込んで、帰ってしまった。

解説 ふもとの寺社を本来の参拝先のすべてだと思い込んだ。「心得る」を単に知識があるとし
ない。

採点 参拝する所はこれだけという判断6点／帰ったこと4点。

問4 完了の意味〔10点〕

答え 長年思っていたことを果たしました。

解説 「年ごろ」は長年。「ぬ」は果たしたという完了で、否定ではない。

採点 長年3点／思っていたこと3点／果たしたという完了4点。

問5 比較と程度〔15点〕

答え 聞いていた以上に、尊くいらっしゃいました。

解説 聞いていた評判と実際に見た印象を比べる。「たふとし」は尊いという意味。

採点 聞いていた以上という比較8点／尊いという評価7点。

D 確認テスト 仁和寺にある法師 続き

確認テスト 100点 採点基準付き

問6 省略された主語〔15点〕

答え 参拝した人がみな山に登ったのは、何かあったのでしょうか。

解説 「人ごとに」は参拝した一人一人。登ったのを法師自身にしない。「けむ」は過去のことへの推測を表す。

採点 参拝した人がみな5点／山に登ったこと5点／何かあったのかという疑問・推測5点。

問7 逆接と否定〔15点〕

答え 知りたかったのですが、神に参拝することこそ本来の目的だと思って、山の上までは見に行きませんでした。

解説 知りたい気持ちと、行かなかった行動が逆につながる。神に参拝しなかったという否定にはしない。

採点 知りたかったがという逆接5点／参拝が本来の目的との判断5点／山までは見なかったという否定5点。

問8 教訓の訳〔15点〕

答え ちょっとしたことにも、案内してくれる経験者がいてほしいものだ。

解説 「先達」は経験があり案内できる人。「あらまほし」は存在を望む気持ちを表す。

採点 ちょっとしたことにも5点／案内する経験者5点／いてほしいという希望5点。

本文の現代語訳

① 仁和寺にいたある僧は、年を取るまで石清水八幡宮を参拝したことがなかったので、残念に思い、ある時決心して、たった一人で歩いて参拝に出かけた。極楽寺や高良神社などを拝み、これだけだと思い込んで帰ってしまった。

② そして近くの人に会って、「長年思っていたことを果たしました。聞いていた以上に尊くいらっしやいました。ところで、参拝した人がみな山に登ったのは、何かあったのでしょうか。知りたかったのですが、神に参拝することこそ本来の目的だと思って、山までは見ませんでした」と言った。

③ ちょっとしたことにも、案内してくれる経験者がいてほしいものだ。